

「徳を以て怨を晴らす」歴史は世に稀であり、

より多くの人々が心に刻むに値する

——薛劍大阪総領事館総領事が「一九四六」神戸絵画展開幕式に出席する——

人民網(人民日報 website)報道 (2022.9.3)

中国大阪総領事館ホームページのニュースによれば、10年程前、魯迅美術学院の王希奇教授は、「一九四六」大型歴史題材絵画を創作する志を立て、5年半の歳月をかけて、「葫蘆島大送還」という中日関係史上、重要な意義を持つ歴史的事件を描き切った。この長さ20m×高さ3mの巨大油絵作品は、2017年より東京・仙台・舞鶴・高知などの地で連続的に展示され、数多くの日本人が引き寄せられ観覧に来ていた。今回、中日国交正常化50周年記念事業として、2022年8月31日から9月4日までの間、兵庫県立美術館原田の森ギャラリー（神戸市）で展示されている。

8月31日薛劍大阪総領事は「一九四六」神戸展開幕式に招待され、テープカットに参加し挨拶を述べた。開幕式には前兵庫県知事 井戸敏三氏、神戸市国際局長 壇特龍王氏、元京都府立大学学長・福知山公立大学名誉学長 井口和起先生、元帝塚山短期大学学長 森一貫先生、神戸華僑代表者(神戸華僑総会会長陳昆儀氏、移情閣(孫文記念館)友の会会長林同福様、NPO法人国際音楽協会理事 張文乃氏)及び、主催者代表の立命館大学名誉教授 安齋育郎博士と事務局長 宮原信哉氏などが出席した。当日は400名以上の人々が来場して観覧した。

薛劍総領事は挨拶で、以下のように指摘した。「一九四六」が描いている「葫蘆島大送還」が生じたのは、抗日戦争が終結して間もなくである。日本軍国主義の侵略戦争が中国に、甚だしい災難と痛苦をもたらしたにもかかわらず、中国人民は人道主義の精神に基づいて種々の困難を克服して、日本人移民や捕虜の大送還のために、多大な人力、物力と財力による支持を提供しました。この「徳を以て怨を晴らす」歴史は世に稀であり、より多くの人々が心に刻むに値する。

薛劍総領事は更に、習近平主席は「歴史を心に刻むのは恨み続けるためではなく、共に戒めとするためである。歴史を伝承するのは過去に捉われるためではなく、未来を切り開いて平和の松明を代々伝えていくためなのだ。」と強調していると述べた。そして以下のように続ける。「戦後、数多くの日本の心ある人々は歴史の教訓を心に刻み、平和を発展させる道を歩もうとし積極的に努力をしてきた。しかし、依然として一部の人々は、侵略の歴史を正しく認識し深く反省することができず、アジアの隣国と国際社会の信頼を得ることができていないどころか、却って常に「被害者」を気取る否定的な言葉と行動が、しばしば隣国を含む広大なアジア人民の感情を傷つけている。現在、この歴史の体験者や目撃者と証人は減少し続けており、本来は伝承されるべき歴史の記憶も次第に風化している。こうした現状は人々を憂慮させているのは、間違いない事実である。国交正常化50周年を迎えた際に、中日関係は再び十字路に立ち至っている。歴史を正しく認識することは、中日関係を発展させる政治的前提であり基礎である。日本が歴史の事実を直視し、歴史の教訓を汲

み取り、今までに歴史問題について表明してきた態度と約束を適切に遵守し、それによって平和の道を歩むことを希望するものである。」

薛劍総領事は、「この『一九四六』という作品は我々に、戦争には勝者はいない。苦しい目に遭うのは、いつも人民なのだと告げている。」と語った。そして更にこう述べた。「平和友好こそが、最も有効で最も信頼できる安全保障なのだ。私は今回の絵画展が、より多くの日本人の人々に、特に若い世代に戦争の真相を理解させ、正しい歴史観を樹立させ中日平和友好の確信を強化させて、人類運命共同体を構築するという崇高な目標に向かって、共同して絶え間なく努力することを期待している。」

各界の来賓からは、「『一九四六』は日本ではほとんど知られていない、一つの重要な歴史を描写している。巨大な油絵は人々に、強烈な視覚的衝撃を齎すとともに、深く考え込まざるを得ない状況に追い込む。我々に、両国の一世代上の政治的指導者たちの、遠見と卓識をより深く理解させられる。日中関係 50 年が獲得してきた、容易ではない発展と成果を大切にしたい。」といった内容が、次々と語られた。元々我々には、歴史の事実を次世代に伝え、戦争を反省し歴史を心に刻み、決して悲劇を繰り返えさせない義務があるのだ。

セレモニー終了後、薛劍総領事が SNS 上で、絵画展の状況と日本人移民・捕虜の大送還の歴史的背景を紹介したところ、多くの日本人フォロワーから、「中国人の先生が私たちに、日本では学ぶことのできない知識を教えてくれた。心より感謝します。」「日本人として私は、深いお詫びとお礼の気持ちを表したい。」「77 年前の中国は人道主義精神に基づいて、敵国の遺児や孤児を助けたのに、現在の日本は未だ朝鮮学校の無辜の児童を差別視している。」「戦後、日本人の遺児を養ってくれた中国の友人たちに、心より感謝する。」等々といった返信が寄せられている。